

作目：ブロッコリー

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
全ステージ	高温時	虫害（チョウ目幼虫の食害）	気温によって害虫の発生パターンが変化する 普段とは異なる時期や異なる種類の害虫による被害が発生しやすい	適切なローテーションで定期的に殺虫剤を散布する	害虫の種類を調べ、効果のある即効性の殺虫剤を散布する	農薬メーカーが定める使用方法に準じる	
発芽時	高温時	発芽不良	高温による生理代謝の異常 高温乾燥による水分不足 灌水過多時は酸素不足も影響しやすい	発芽適温は20℃～25℃*1 播種後に日の当たらない涼しい場所で1～2日程度適温に保ち催芽を促す 催芽室をする 遮光率の高い寒冷紗で被覆し、直射日光を遮る（出芽前に被覆を外すこと）*2	現時点で有効な対策はなく、播きな	暗いと苗が徒長するので、催芽後は速やかに明るい条件にする	*1 https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikei132lyly366005z.htm *2 https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikei143lyly476002z.htm
育苗時	高温・乾燥時	生育不良・枯死	生育に必要な水分が不足する	適量を灌水して培養土の水分量を維持する	十分に灌水する萎れた本葉が元に戻れば回復が見込める		
	高温・多湿時	苗の徒長	苗の蒸散量低下による体内水分量の過剰が苗の徒長を促す	苗が萎れない程度に灌水量を控える 循環扇などを使って換気を促す 元肥の少ない培養土を使う	徒長発生後の生育を抑えるため、液肥追肥をしている場合は追肥を控える		
		苗立枯病	リゾクトニアやピシウムなどの糸状菌の感染が原因 高温、多湿条件が感染を助長する	無病の培養土を使用する	発病株は早期に抜き取り処分する 苗立枯病に適用のある薬剤を散布する		


2025年8月時点 農研機構調べ

作目：ブロッコリー

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
定植後～外葉形成期	高温乾燥時	生育不良・枯死	生育に必要な水分が不足する		灌水設備がある場合は、散水チューブなどで地面が十分湿る程度に灌水する	生育ステージに関わらず、高温乾燥時には発生し得る	
		ブラインド（成長点消失）	高温によって成長点が活性を失い、消失する 成長点が消失しないまでも、頂芽優勢が弱まり、側枝発生が旺盛になることがある	耐暑性品種の利用		側枝発生が旺盛になると、主茎と競合して収穫に至らないことがあるキャベツでいうところの分球症状にあたる	耐暑性品種については種苗会社各社のHPを参照
	高温・多湿時	根こぶ病	根こぶ病菌による感染で発生する土壌伝染性の病害 水田転換畑などの排水不良の土壌で発生しやすい 秋以降の高温多湿条件で発生しやすい	耐病性品種の利用 連作を避ける 圃場の排水対策を徹底する 石灰資材を施用し、土壌のpHを高める（pH7以上） *3 有効な殺菌剤の土壌施用	薬剤、発病株の早期除去	根こぶ病菌 (Plasmodiophora brassicae)	耐病性品種については種苗会社各社のHPを参照*3 https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/187234.pdf
		黒すす病	アルタナリア菌による病害、秋以降の高温多湿で発生しやすい	薬剤散布、窒素減肥、密植を避け風通しを良くする	薬剤散布、発病株の早期除去		
		腐敗病	ピシウム菌による土壌病害、高温多湿で発生する	排水対策	排水対策、発病株の早期除去		
		黒斑細菌病	シュードモナス細菌による病害	薬剤散布	発病株の早期除去		

2025年8月時点 農研機構調べ

作目：ブロッコリー

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
花蕾肥大期～ 収穫期	高温時	不整形花蕾 	高温により正常な花芽分化が阻害される*4	耐暑性品種の利用			耐暑性品種については種苗会社各社のHPを参照 *4 https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikei132lyly366008z.htm
		リーフィー 	窒素過多や高温により花蕾の中に葉が差し込む*4	窒素減肥、耐暑性品種の利用	軽度であれば葉を手で除去すれば出荷できる可能性がある	*5 https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/375340.pdf	
		ホローステム（茎空洞症） 	高温や窒素過多、過湿による急成長*6、ホウ素欠乏*7により茎中央に空洞ができる（すが入る） 発生要因はかさぶた症と同じ	窒素減肥*6、ホウ素施肥*7、耐暑性品種の利用		*6 https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/documents/11bur-okkori.pdf *7 https://www.ja-aichi.or.jp/hiryounouyaku/fert/sick.html	
		かさぶた症 	窒素過多や高温による急激な成長、ホウ素欠乏により茎表面が割れ、コルク状になる*6 発生要因はホローステムと同じ			*8 https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyokankei/letter/documents/ntk458_veg1.pdf	

2025年8月時点 農研機構調べ

作目：ブロッコリー

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
花蕾肥大期～ 収穫期	高温・乾燥 時	黄化（ブラウンピース、死花） 	高温による蕾の枯死*4、*5、*8	耐暑性品種の利用		取り遅れで発生しやすいので、早期収穫を心がける	
		キャッツアイ 	高温による花芽の発達不良*4、*5、*8	耐暑性品種の利用		取り遅れで発生しやすいので、早期収穫を心がける	
	高温・多湿 時	黒すす病	アルタナリア菌による病害、秋以降の高温多湿で発生	薬剤散布、窒素減肥、密植を避け風通しを良くする	薬剤散布、発病株の早期除去		
		花蕾腐敗病	数種類の細菌による病害	窒素減肥、薬剤散布、カルシウム資材の施用*9	発病株の早期除去		*9 https://www.hro.or.jp/upload/19688/1911.pdf
		黒斑細菌病	シュードモナス細菌による病害	薬剤散布	発病株の早期除去		

2025年8月時点 農研機構調べ